

Shokuhin News -2008 December-

神戸大学 農学部 生物機能化学科 食品・栄養化学研究室

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1 電話 078-803-6553 Fax 078-803-6553

e-mail: shoku@kobe-u.ac.jp http://www.kobe-u.ac.jp/shokuhin

News

金沢教授 兵庫県科学賞受賞

10月30日(木)、兵庫県が各分野で優れた業績をあげた人々を讃える2008年度兵庫県文化賞、科学賞、スポーツ賞、社会賞の各賞受賞者を発表し、金沢教授が兵庫県科学賞を受賞した。

金沢教授の「食品成分の機能性研究の先駆者として世界で初めてポリフェノール・フラボノイドの生活習慣病予防機能を分子生化学的に明らかにするとともに機能性食品を開発するなど健康の増進と産業の発展に貢献した功績」が評価されたもので、11月5日(水)に兵庫県公館において表彰式が開かれた。

詳細は下記 URL

http://web.pref.hyogo.lg.jp/ac13/ac13_000000009.html#h02

「伝統食品昆布の機能性発掘」シンポジウム及び 日本農芸化学会関西支部 第457回講演会

12月6日(土)9:30から日本盛酒蔵通り煉瓦館(西宮)にて「伝統食品昆布の機能性発掘」シンポジウムが開催され、当研究室と糖鎖機能化学研究室内の学生が会場準備や運営などに精を出した。特に朝の会場案内は寒さがしみた様子。B4の下秋智寛、高見優、桃田拓郎の三人はそれぞれJR、阪急、阪神の駅前を担当、M2の中林秀郎は煉瓦館前を担当し、通勤で多くの人が行きかう中、寒さに凍えていた。

午後からは日本農芸化学会関西支部第457回講演会が同会場にて開催され、こちらも当研究室が生物機能開発化学研究室内の学生とともに会場運営などを手伝った。

また、そんな中、上田啓輔(M2)が一般講演にて口頭発表を行った。

今回の講演会では、特別講演として尾島孝男先生(北海道大学)が「海産無脊椎動物の多糖分解酵素の基本性状とその利用」について講演されたため、午前のコンブに関わるシンポジウムとともに、特にコンブに含まれるフコキサンチンやフコイダンを研究テーマにしている学生にとっては非常に有意義な一日となった。

懇親会では日本盛の美味しい日本酒を試飲することができ、皆、その味に舌鼓を打っていた。



結婚式でカラオケを披露するかのように口頭発表を行う上田。



寒さに耐えて案内係を務める中林。

下秋(B4)が代表してコメント。

今回初めて学会の運営上手の手伝いを行いました、そんな自分に与えられた役割は JR 西宮駅での案内係でした。最低気温 3℃という寒さの中、唯一の救いである太陽も差さない日陰での案内は

非常に辛いものでしたが、数名の方を案内できたので報われた気がしました。役目を終えて、戻った支部例会の会場の暖かさは今でも忘れることはできません。

B4 下秋 智寛

受賞祝賀会・縦コン

12月12日(金)、兵庫県科学賞受賞を記念した祝賀会を、毎年恒例の縦割りコンパの二次会を兼ね、三宮の「はいからや」で開催した。

当研究室のメンバーに加え、糖鎖機能化学研究室の水野教授や西谷助教、また土壌学研究室の藤嶽暢英准教授にも受賞のお祝いにつけていただき、縦コン2次会の3回生を含め非常に多くの方と共に金沢教授の受賞を祝うことができた。



両手に花でうれしそうな金沢教授(右)と「花」の石垣(左)。



3回生(左)と語り合う下秋(B4、手前)、...と2人の話に聞き入るD1の任人棟(奥)。

辻上快挙！！

12月20日(土)に第37回農学部六甲山20キロマラソン大会が開催され、橋本助教、上田(M2)、吉村和人(M2)、岡村岳(M1)、辻上沙希(M1)、河野裕明(B4)、龍建盛(研究生)が参加。20km以上の険しい山道のコースにそれぞれが自分のペースで挑み、脚が悲鳴をあげ膝が笑いつつも見事全員が3時間以内での完走を成し遂げた。そんな中、辻上(M1)は、箱根駅伝選手顔負けの快走を見せ、研究室メンバー内でトップさらには女子の部優勝(2時間2分13秒・総合20位)という輝かしい成績をあげた。

以下は各々のタイムと順位。

岡村(2時間6分・24位)、橋本助教(2時間8分・25位)、上田(2時間17分・28位)、吉村(2時間19分・29位)、河野(2時間22分・32位)、龍(2時間55分・40位)



出走を前に気合の入った食品メンバー。左から龍、辻上、岡村、吉村、上田、河野、橋本助教。



女子の部優勝の表彰を受け感想を述べる辻上。

観光気分で完走を果たした龍のコメント。

今回初めてこのマラソン大会に参

加させていただき、まさに一生の思い出に残るような体験となりました。マラソンなど経験したことの無い私にとって今回のコースは非常に苦しいもので、途中で足の痛みや、だんだん暗くなっていく道の怖さに襲われたりもしましたが、コースの景色を楽しみながら走ることができたので、とてもうれしかったです。

最後に、私がゴールする頃にはもうすっかり暗くなっていたにも関わらず皆さんがゴールで待っていて下さり、また迎えにも来て下さったことにとても感動しました。

皆さんありがとうございました。

研究生 龍 建盛

研究室忘年会

12月26日(金)、金沢先生馴染みの「八悟」において研究室忘年会を開催した。糖鎖機能化学研究室から水野教授、西谷助教と学生さんが参加。さらに西谷助教の奥様が途中から参加されるなど非常ににぎやかな会となり、今年1年の労をねぎらうことができた。



美味しい料理を前に、左から笑顔の辻上、錦秘書、田中。



西谷助教と奥様(左)

今年も一年おつかれさまでした！！

OB・OG忘年会

OB・OG 忘年会が12月28日(日)三宮「美味しんぼ」にて開催された。参加者は、水野教授、橋本堂史(02年度 博士)、谷芳能(06年度 学士)、東陽介(07年度 学士)、榊原啓之(02年度 博士)、野中裕司(01年度 修士)、野中裕美(旧姓:向井、00年度 学士)、柳谷博昭(01年度 修士)、柳谷麻郁(旧姓:上原、04年度 修士)、永安弘宜(03年度 修士)、森下綾子(00年度 学士)、小土井理恵(03年度 修士)、中川聡史氏(03年度 修士)、藪下善行(03年度 修士)、野淵翠(06年度 修士)、寺嶋さやか(01年度 修士)、伊藤若菜(02年度 修士)。0歳から49歳までが、一緒に楽しい時を過ごした。

2次会から、佐野貴士(01年度 修士)が、さらに3次会から古屋敷隆(02年度 修士)が参加したらしい、...



そっくりな柳谷親子を見つめる榊原(左)。



独身・藪下(左)は子育ての練習中。お母さんになった柳谷(旧姓:上原、手前)と新婚の中川(奥)。



子守中の野中(旧姓、向井:左)と森下(右)。



カメラに近すぎる野淵(左)と永安(右)。奥は野中、寺嶋、小土井などなど。

寒い中、お集まりくださりましてありがとうございます。また、良い知らせをもって集まりましょう。

大井直美のミネソタの風

～第2弾～

ミネソタはオースチンにあるホームेल研究所でポスドク生活を始めて8ヶ月が経過し、とうとうミネソタの冬がやってまいりました。ミネソタの冬と言えば極寒。華氏で氷点下の世界。ガレージのない我がアパートメントでは、1日は車の雪かきで始まります。我が家からの風景も、こんなに様変わりしてしまいました。



5月



12月

そんな中、12月25日にボスであるDr. Dong宅にてクリスマスパーティーが開催。いまだかつて見たことのないほど広い家にまずは呆然。しかも、卓球用の部屋が！！アメリカの中の中国を見ました(ちなみに、研究所にも卓球ルームがあります)。家の中の探索ツアーから始まったパーティーは、次第におしゃべりからカラオケへと移行し、最後は歌え踊れの大盛り上がり。しかし、一部、パーティーそっちのけで延々と卓球を続ける人々も・・・。



クリスマスツリー&暖炉の前にて。



カラオケ序盤。この後ダンスパーティーに様変わり。

続いて、職場であるホームेल研究所の紹介へ。

ホームेल研究所は、10月に地下1階、地上2階建ての巨大な新研究棟のグランドオープニングを迎えたばかり。グランドオープニングセレモニーは、著名な先生方も多数参加され、新聞やテレビでニュースになるなど盛大に執り行われました。



新研究棟



テープカット



オープニングセレモニー



メインエントランス



細胞培養室



そして、大井の実験台

そんなこんなであつと言う間に8ヶ月が経ちました。そして、8ヶ月経っての感想……英語が喋れません。そのため研究所では、一部の人を除いてとても大人しいヤツだと思われているようです。そんな大井がミネソタからお伝えしました。

次回はオースチン&ミネアポリス観光特集です。

大井直美

業績

講演)

「伝統食品昆布の機能性発掘」シンポジウム(12月6日、酒蔵通り煉瓦館、神戸)

○金沢和樹、「昆布の機能性を発掘するプロジェクト」

学会発表)

日本農芸化学会関西支部第457回講演会(12月6日、日本盛酒蔵通り煉瓦館、神戸)

○上田啓輔、後藤美保、藤原慎司、松山佳世、米谷俊、橋本堂史、金沢和樹、「DNA 塩基グアノシンの新たな酸化経路について」講演要旨集 p.6

論文発表)

田中義行, 大津圭吾, 中村年一, 細川宗孝, 山口加及子, 金沢和樹, 矢澤進. トウガラシ幼植物の茎葉を食用とする新しい野菜に含まれる一酸化窒素ラジカル(NO)産生抑制物質. 園芸学研究 7(4), 491-497, 2008

Kazuki Kanazawa, Yoshiaki Ozaki, Takashi Hashimoto, Swadesh K. Das, Saori Matsushita, Masashi Hirano, Tadashi Okada, Akihiko Komoto, Nobuki Mori and Masahiro Nakatsuka. A good resource for biofunctional fucoxanthin is waste parts of brown sea algae *Lamina-*

lia japonica. *Food Sci. Technol. Res.* 14(4), 573-582, 2008

Events

○2月8日(日)金沢教授の還暦パーティーを行います。

時間:11:30~13:30

場所:櫻宴(櫻正宗記念館)

神戸市東灘区 078-436-3030

会費:5000 円位

ご出席される方は、事前に橋本までご連絡ください。

E-mail: takashi@kobe-u.ac.jp

編集後記

現在食品ニュースの編集担当である前田さん、吉村さんの後を引き継ぐべく、練習の意味をこめて今回初めて編集をさせていただきました。拙い文章ではありますが、食品・栄養化学研究室の情報をしっかり伝えていけるようにがんばりたいと思います。

B4 河野 裕明